

(公財)京都市都市緑化協会		平成28年度経営計画 兼 経営努力結果	
基本事項			
所管局課	建設局みどり政策推進室	本市出えん金	50,000 千円
基本財産/資本金	50,000 千円	本市出えん率	100.0 %
「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」			
方向性	自律化	目標年度	平成32年度
「今後の方向性」に向けた基本的方針			
業務面	業務全般について、公益性を確保しながら合理化と収益性の向上を図る。特に指定管理事業では、施設活性化を一層図り利用料金収入の増加を目指す。		
財務面	平成27年度以降は京都市からの事業補助金が廃止されることを前提に、事業収益や寄附金の増収、経費の節減、公益法人の優遇税制の活用により、公益目的事業の基盤を確保、強化する。		
組織面	京都市からの派遣職員（常勤役員兼務）を平成26年度末に廃止したため、固有職員の人材育成を進め、京都市との連携態勢を築く。		
その他	京都の「緑の文化」の発信等の事業について、緑化関連団体、大学、企業、市民団体、地域団体、マスコミ等の団体との連携・協力関係を一層広げる。		
当年度の取組目標に対する意見			
所管局	平成27年度に補助金及び常勤役員兼務の本市職員の受入れを廃止し、新たな公益事業の取組みを拡充するなど、公益性を守りながら自律化に踏み出している。平成28年度はさらに公益事業を充実させるとともに、財務・組織力強化のための、新たな自主財源の確保に向けた取組が必要である。		
当年度の取組に対する総括			
団体(※)	平成28年度は、自律化を進めるため、新規事業の拡充と財務基盤強化のための取組を進めた。業務面では特に京都鉄道博物館開業に対応し、公園から京都駅までのエリアの環境整備業務など公園内外の安全・安心の確保や界隈のにぎわい創出に取り組んだ。また、希少植物保全における企業・団体とのネットワークづくりを一層強化し、新たな事業展開への取組を進めた。財務面では、指定管理業務以外の受託事業の拡充による増収、経費の抑制により6期連続の黒字を達成した。		
所管局(※)	平成27年度に補助金及び常勤役員兼務の本市職員の受入れを廃止し自律化に踏み出しているが、平成28年度は新規事業の受託による増収等で財務基盤を強化し、財務面でも自律化の取組を進めた。当期一般正味財産増減額も6期連続で黒字となるなど、現在のところ、財務面は概ね順調といえる。業務面では、普及啓発事業として、京都市緑の基本計画に基づいた都市緑化・自然環境に関する講習会や、イベントを積極的に実施し、企業・団体と連携した希少植物に関するネットワーク事業の拡充にも取り組んだ。また、梅小路公園の指定管理業務においては、京都鉄道博物館開業に伴う対応や関係団体・企業等との連携を図り、公園周辺地域の活性化に寄与した。		
外郭団体総合調整会議(※)	本市からの職員派遣や補助金に頼らない黒字運営を実現しており評価できる。引き続き運営体制の強化に取り組んでいただきたい。		

(1)業務に関する取組

目標1「公園施設の利用拡大」

中期経営計画における取組	<p>平成27年に開園20周年を迎える梅小路公園においては、京都の緑の文化を発信する季節感に富むイベントの実施、京都水族館や平成28年開業予定の京都鉄道博物館等公園施設との連携、及び近隣ホテル等への積極的な営業活動により、利用者数を増やす。</p> <p>宝が池公園子どもの楽園においては、平日に家族連れが滞在しやすい場所づくり等により、利用者数を増やす。</p>
当年度目標	<p>梅小路公園においては、平成28年4月の京都鉄道博物館開業により大幅な公園利用者の増加が予想される。このような状況に的確に対応するため、ホームページ・園内サイン類の改善、四季の花の充実、及び公園内外の施設・団体との広報・案内業務の連携強化を行い、利用料金施設である「朱雀の庭・いのちの森」及び貸室の利用者拡大を図る。都心の森として育まれてきた貴重なビオトープ施設「いのちの森」については特に、開園20周年を迎えるに当たり、ハード、ソフト両面の充実を図り、新規利用者やこれまでの課題であったリピーターの獲得に取り組む。また、チンチン電車を活用した自主事業を行い、鉄道文化の普及とともに収益増につなげる。</p> <p>宝が池公園子どもの楽園では、閑散期（夏、冬）や平日のイベントを積極的に実施し、駐車場利用料金の増収を図る。</p>
当年度結果(※)	<p>梅小路公園では、利用者の利便性を向上させるため、施設改善（緑の館イベント室照明のLED化、いのちの森木製デッキ改修等）に取り組んだ。また、京都鉄道博物館開業に合わせた庭園休園日の特別開園や、朱雀の庭夜間ライトアップ実施時に京都水族館、京都鉄道博物館入場者への割引キャンペーンを実施するなど公園内施設との連携を図った。これらの取組により、梅小路公園の利用料金は前年度から増加し、目標を達成することができた。さらに公園内イベントにあわせ、チンチン電車の夜間運行とライトアップを初めて実施した。</p> <p>子どもの楽園では、良好な日常管理を引き続き行うとともに、夏期の親水空間のこまめな清掃等により利用者の満足度向上に取り組んだ。また、プレイパーク及び特別イベントの実施回数を増やす等、積極的に事業を展開した。ただし、週末の天候不順等により、目標は達成することができたが、収入は昨年度から減少した。</p>

指標①	梅小路公園朱雀の庭・いのちの森入園料及び貸室利用料金の合計額 (単位：千円)			
中期経営計画	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	—	7,500	10,000	12,000
実績	目標	実績	目標	見込
	6,900	6,693	7,500	—
			実績(※)	実績(※)
			9,637	10,730

指標②	宝が池公園子どもの楽園駐車場の利用料金 (単位：千円)			
中期経営計画	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	—	17,000	17,500	18,000
実績	目標	実績	目標	見込
	16,000	17,355	17,000	—
			実績(※)	実績(※)
			18,681	17,567

(公財)京都市都市緑化協会	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	------------------------

目標2「公益目的事業の効果・効率性の向上」	
中期経営計画における取組	公益目的事業の自律的な運営のためには、公益性を確保しつつも合理化と収益性の向上を図る必要があることから、年間100回を超えている緑化関連講習会等について実施内容を見直し、効果的・効率的な実施を図る。
当年度目標	引き続き効果的、効率的な事業実施を図るとともに、事業参加者が定員に達していない教室等については、プログラムの改善を講じる。また、開園20周年を迎えるビオトープ施設「いのちの森」を活用した企画も新たに実施するなど、既存施設を有効に利用した事業運営を行う。
当年度結果(※)	平成28年度は効率的な事業実施をさらに徹底し、一部教室の廃止や、内容の見直し等を行なった。その結果、1回当たりの参加者数は目標値を達成した。

指標	緑化関連講習会等の1回当たり参加者数				(単位：人/回)			
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度			平成29年度
	—		22.5		24.0			25.0
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	20.8	21.6	22.5	22.7	24.0	—	24.5	

(公財)京都市都市緑化協会	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	------------------------

(2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績(※)	
経常収益	261,763	276,668	265,000	292,218	286,500	312,856	平成28年度予算は、事業推進積立金から、梅小路公園指定管理業務の充実及び公益目的事業の拡充に600万円を取り崩す予定であるため、正味財産額は△600万円となる見込みである。
経常費用	261,763	276,584	268,000	289,248	292,500	309,053	
当期経常増減額	0	84	△ 3,000	2,971	△ 6,000	3,803	
当期正味財産増減額	0	813	△ 3,000	2,971	△ 6,000	3,788	
資産合計	—	182,010	—	186,566	—	199,540	
負債合計	—	90,546	—	92,131	—	101,317	
正味財産	—	91,464	—	94,435	—	98,223	
うち累積損益額	—	41,464	—	44,435	—	48,223	

目標1「京都市からの補助金に頼らない運営」	
中期経営計画における取組	京都市からの事業補助金は、平成27年度以降は廃止されることとなる。これに対応して、イベント開催等の魅力あふれる公園施設運営により利用者数を増やし、その他受託事業、収益事業は新規事業を含めた収益拡大に取り組む。これらを通じて、京都市補助金はなくとも、幅広い市民・団体向けの公益目的事業を推進する財源を確立する。
当年度目標	平成27年度から市補助金が廃止されたが、これまで受託してきた2件の指定管理業務について、改めて平成27年度から4年間の指定管理者に選定されたことや、国立京都迎賓館庭園の管理を継続して受託していること、また、稀少植物保全等の公益目的事業に必要な新たな収入を得たことなどから、一定の経営基盤を確保できる見込みである。平成28年度はさらに、新たな事業の受託や公園内でのグッズ販売等により財務面での安定化を図る。
当年度結果(※)	平成28年度は、新たな受託事業の拡大や梅小路公園の利用料金の増収となったほか、他の事業収入も堅調に推移した。費用面では事業の拡大により人件費、修繕費、委託費が増加したが、経費の抑制や優遇税制の活用を行った。当初予算の段階では一般正味財産増減額は600万円の赤字を見込んでいたが、これらにより5期連続の黒字を達成した。

指標	京都市からの補助金額							(単位:千円)
中期経営計画	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		—		0		0		0
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	26,334	26,334	0	0	0	—	0	

(公財)京都市都市緑化協会	平成28年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	------------------------

目標2「公益目的事業の水準の確保」	
中期経営計画における取組	各種事業や寄附金の増収，経費の節減，及び公益法人の優遇税制の活用により，公益目的事業の水準を確保する。
当年度目標	平成27年度は経営基盤確立に向け，収益事業の支出を増やしたため，公益事業比率は目標に達しない見込みであるが，平成28年度は公益目的事業として，庭園文化発信事業や社会的要請が高い絶滅の危機に瀕する京都ゆかりの希少植物保全の関連事業を拡充する。また，既存事業についても計画的，効率的な運用を行い，公益目的事業比率の確保に努める。
当年度結果(※)	平成28年度は梅小路公園周辺エリアの環境整備業務，希少植物の保全活動などに積極的に取り組み，目標を上回る公益目的事業費率66.7パーセントを確保した。

指標	公益目的事業比率 (単位：%)						
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度
中期経営計画	—		63		63		63
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)
	68	57	63	66	63	—	67

(3)組織に関する取組

目標「京都市からの派遣職員受入れの廃止と固有職員の育成」

中期経営計画における取組	京都市派遣職員の受入れを平成26年度末に廃止したうえで、京都市と連携しつつ自律的に事業を推進するため、派遣職員の役割を引き継ぐ人材、専門的スキルを持った人材等の育成又は採用を行う。
当年度目標	専門的スキルを持った人材を採用するとともに、研修等による固有職員の資質向上を図り、組織力の強化に努める。
当年度結果(※)	平成27年度より、京都市からの派遣職員の受入れを廃止している。平成28年度は研修等による固有職員の資質向上に取り組んだ。

指標	京都市からの職員派遣受入れ人数 (単位：人)							
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
中期経営計画	—		0		0		0	
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	1	1	0	0	0	—	0	—

(4)その他の取組

目標「みどりのネットワークの拡大」

中期経営計画における取組	都市の風格を高める京都の「緑の文化」の発信，京都ゆかりの希少な植物（和の花）とその生息環境の保全，その他公園緑地の価値を高める各種事業において，緑化関連団体，大学，企業，市民団体，地域団体，マスコミ等の各団体との連携・協力関係を一層広げる。
当年度目標	平成27年度から本格的にスターした，KES（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）の認証登録を行う特定非営利法人KES環境機構が実施する生物多様性プログラム（京のエコロジカルネットワークプロジェクト）に引き続き参画し，各地域のボランティア団体への支援を広げる。また，この取組をきっかけとした企業等と連携・協力関係を広げる。
当年度結果(※)	KES環境機構による「京のエコロジカルネットワークプロジェクト」への技術的な支援及び協力を平成28年度も引き続き実施し，参加団体は182団体と大幅に増加した。このほか，市街地の緑化事業で地域の団体への技術的支援を行った。

指標	当協会が主体となる事業で連携・協力する団体数 (単位：団体)							
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
中期経営計画	—		130		140		150	
実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	見込	実績(※)	—
	115	114	130	190	190	—	195	—